

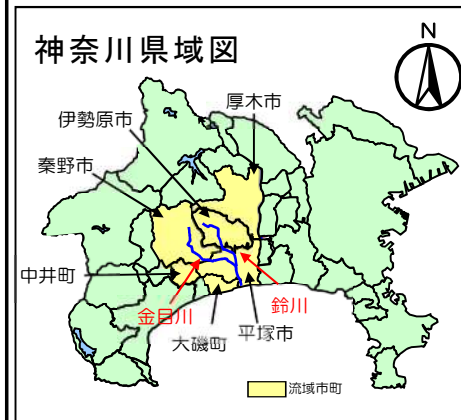
No. 7 二級河川金目川（鈴川） 河川改修事業

◆ 事業概要

1. 概要

1) 全体の概要

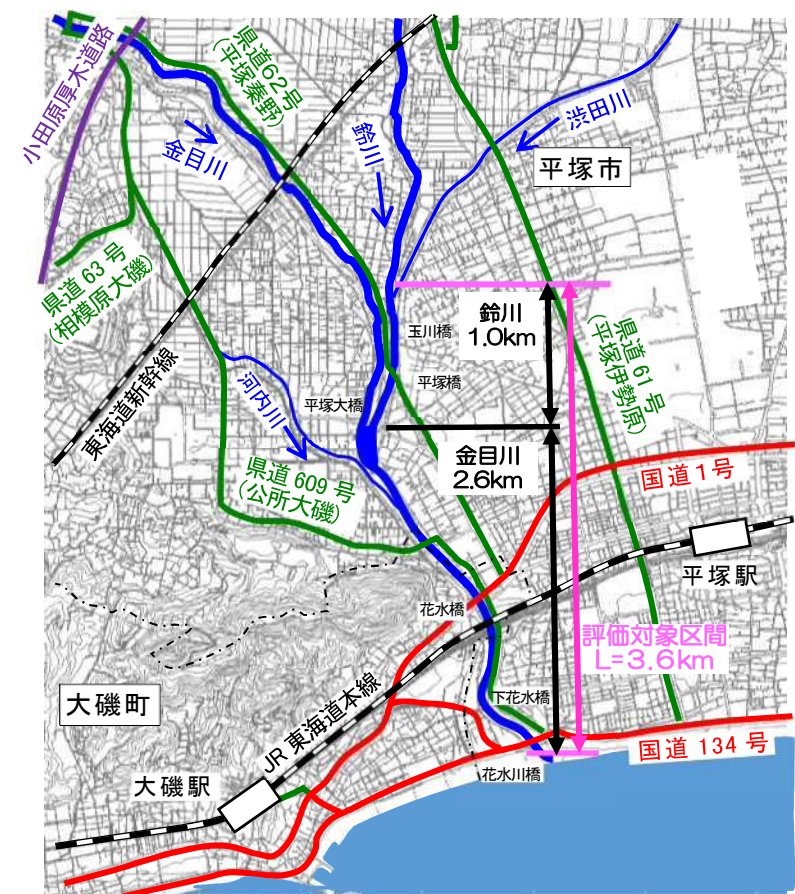
- ア) 金目川は、秦野市丹沢山地の塔ノ岳、大山に源を発し、鈴川、渋田川等の支川を合流して、平塚市唐ヶ原で相模湾に注ぐ、延長 19.5km、流域面積 177.2km²の二級河川である。
- イ) 本河川の流域は、平塚市、秦野市、厚木市、伊勢原市、大磯町、中井町の 4 市 2 町である。
- ウ) 本河川の流域内には、JR 東海道本線、小田急電鉄小田原線、高速道路等、国道、県道等の交通網が発達している。また、本河川を横断する東名高速道路、小田原厚木道路、国道 1 号、国道 134 号、国道 246 号、県道 62 号は災害時の緊急交通路指定想定路として位置づけられている。



2) 評価対象事業の概要

評価対象区間は、金目川河口から渋田川合流点までの 3.6km であり、そのうち金目川が 2.6km、鈴川が 1.0km としており、時間雨量 50mm の降雨に対応するよう川幅を広げ、護岸整備などを行う。

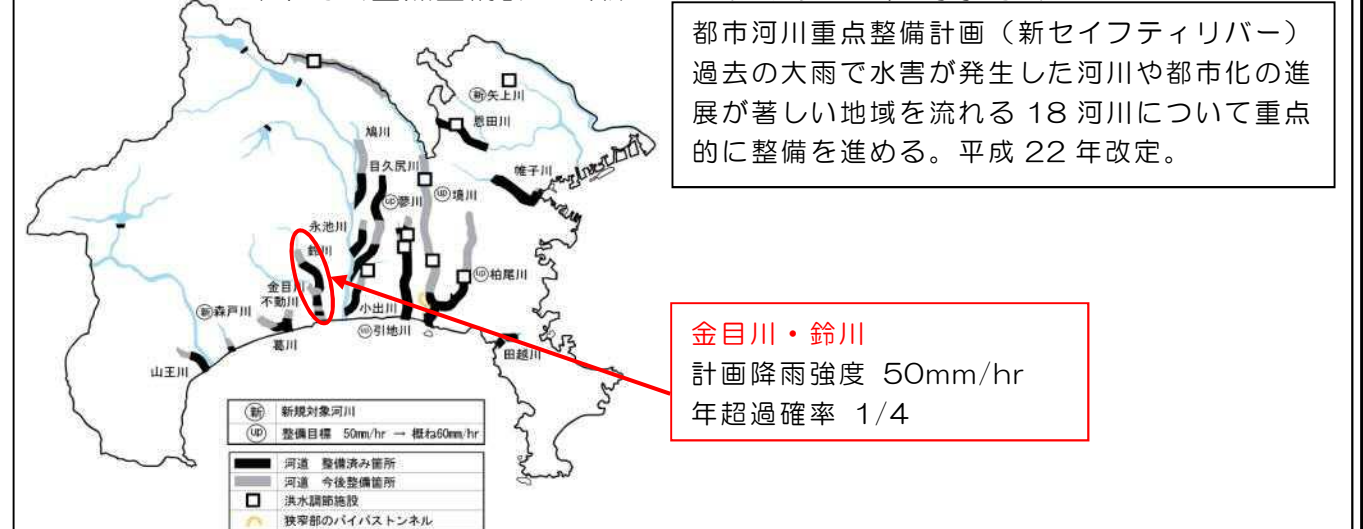
事業地周辺図



3) 評価対象事業の位置づけ

- 県の計画：・かながわグランドデザイン 第2期 実施計画 主要施策・計画推進編
「湘南地域圏 地震や豪雨などの自然災害に備えた安全・安心の確保、湘南の豊かな自然の保全と再生の推進」に位置づけ
- ・神奈川県地域防災計画 ～風水害等災害対策計画～
「第2編 風水害対策編 第1章 災害に強いまちづくり 第3節 治水対策」に位置づけ
- ・かながわの川づくり計画
「都市河川重点整備計画（新セイフティリバー）」対象河川に位置づけ
- 市の計画：・平塚市地域防災計画 ー風水害等対策計画ー
「第2章 減災に向けたまちづくり 第3節 河川改修等」に位置づけ
- ・大磯町地域防災計画 〈風水害等災害対策編〉
「第1章 災害に強いまちづくり 第3節 水害予防に関する計画」に位置づけ

都市河川重点整備計画（新セイフティリバー）対象河川



N o . 7 二級河川金目川（鈴川） 河川改修事業

2. 事業の経緯や必要性

1) 経緯

昭和45年度	都市計画決定
昭和46年度	台風第23号等による浸水被害発生(床上浸水10戸、床下浸水138戸、浸水面積82ha)
昭和49年度	台風第8号等による浸水被害発生(床上浸水63戸、床下浸水359戸、浸水面積23ha)
昭和50年度	豪雨による浸水被害発生(床下浸水49戸、浸水面積9ha)
昭和52年度	台風第9号等による浸水被害発生(床上浸水27戸、床下浸水207戸、浸水面積5ha)
昭和59年度	豪雨による浸水被害発生(床上浸水9戸、床下浸水97戸、浸水面積9ha)
平成3年度	台風第17号等による浸水被害発生(床上浸水54戸、床下浸水98戸、浸水面積54ha)
平成10年度	豪雨による浸水被害発生(床下浸水12戸、浸水面積1ha)
平成15年度	評価対象区間 事業着手
平成20年度	評価対象区間 再評価実施
平成25年度	豪雨による浸水被害発生(床上浸水32戸、床下浸水28戸、浸水面積1ha)
平成25年度	台風第18号による浸水被害発生(床上浸水6戸、床下浸水8戸、浸水面積1ha)
平成25年度	評価対象区間 再評価実施

2) 必要性

- ア) 金目川は流下能力が不足していることから、台風等の大雨で浸水被害が発生しており、被害の軽減が必要である。
- イ) 流域の開発が進み、河川への流出量が増大したことから、改修の必要性が高くなった。

3. 事業の目的

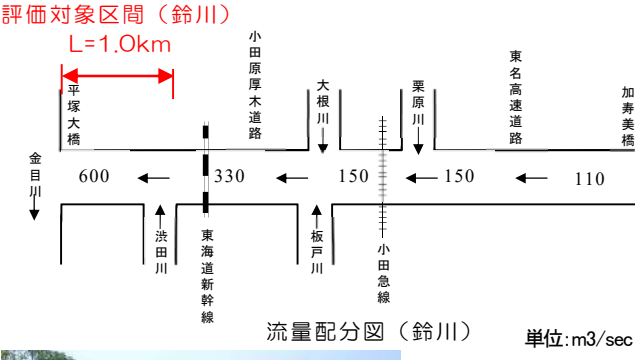
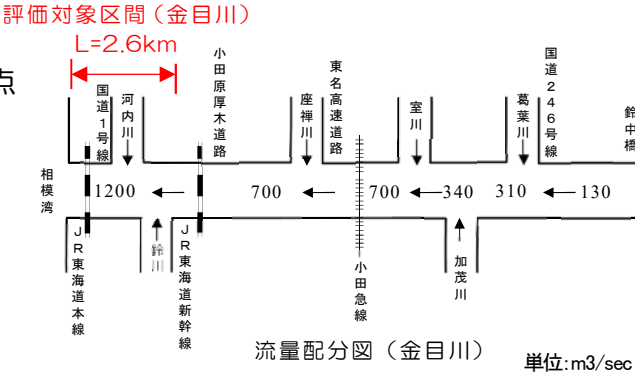
河川改修を推進し、都市の治水安全度の向上を図る。

4. 事業の内容

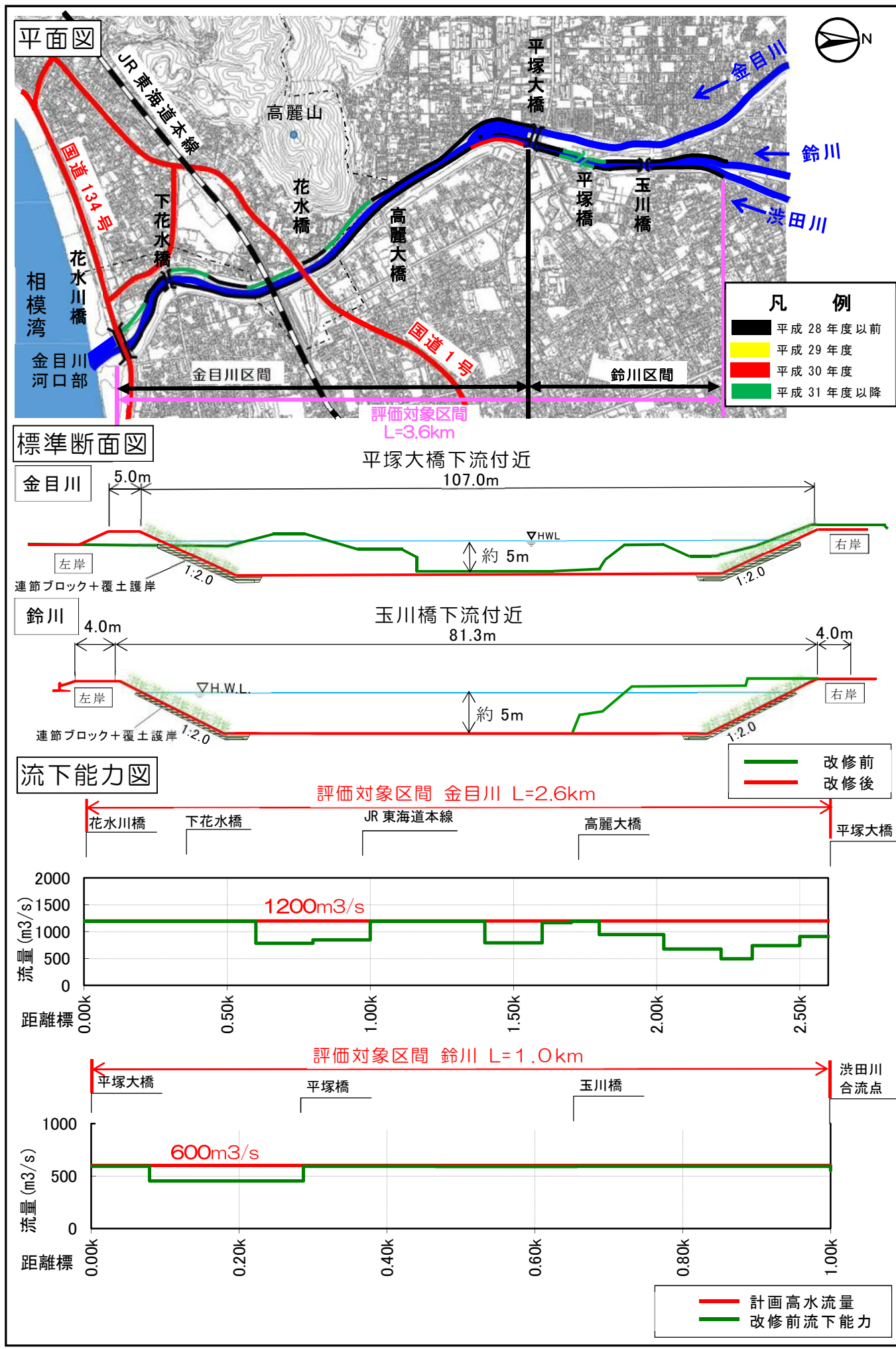
- 1) 事業区間：金目川河口～渋田川合流点
- 2) 事業延長：3.6km
- 3) 主な工種：河道整備、橋梁架替工
- 4) 計画降雨強度：50mm/hr
- 5) 年超過確率：1/4
- 6) 計画高水流量：600～1,200m³/s
(評価対象区間)

5. 事業実施にあたって配慮した項目

- 1) 完成後の堤防が住宅地に隣接する箇所について、周辺住民が完成後の堤防をイメージしやすくするように、実際の堤防の形状を現地に木枠で設置した。
- 2) 鈴川の評価対象区間では、地域住民の参加によるワークショップを開催し、豊かで潤いのある河川環境の保全や復元を基本とした川づくり計画を策定した。その計画に基づき、一部の区間では、護岸の上に覆土し、芝生を植えたり、川へ降りるための階段やスロープ、水辺の遊歩道などを設置したり、環境や親水に配慮した整備を進めている。



鈴川ワークショップによる整備（玉川橋下流）



№. 7 二級河川金目川（鈴川） 河川改修事業

◆ チェックリスト

(1) 事業の必要性等に関する視点

①事業を巡る社会経済情勢

ア) 地域の状況

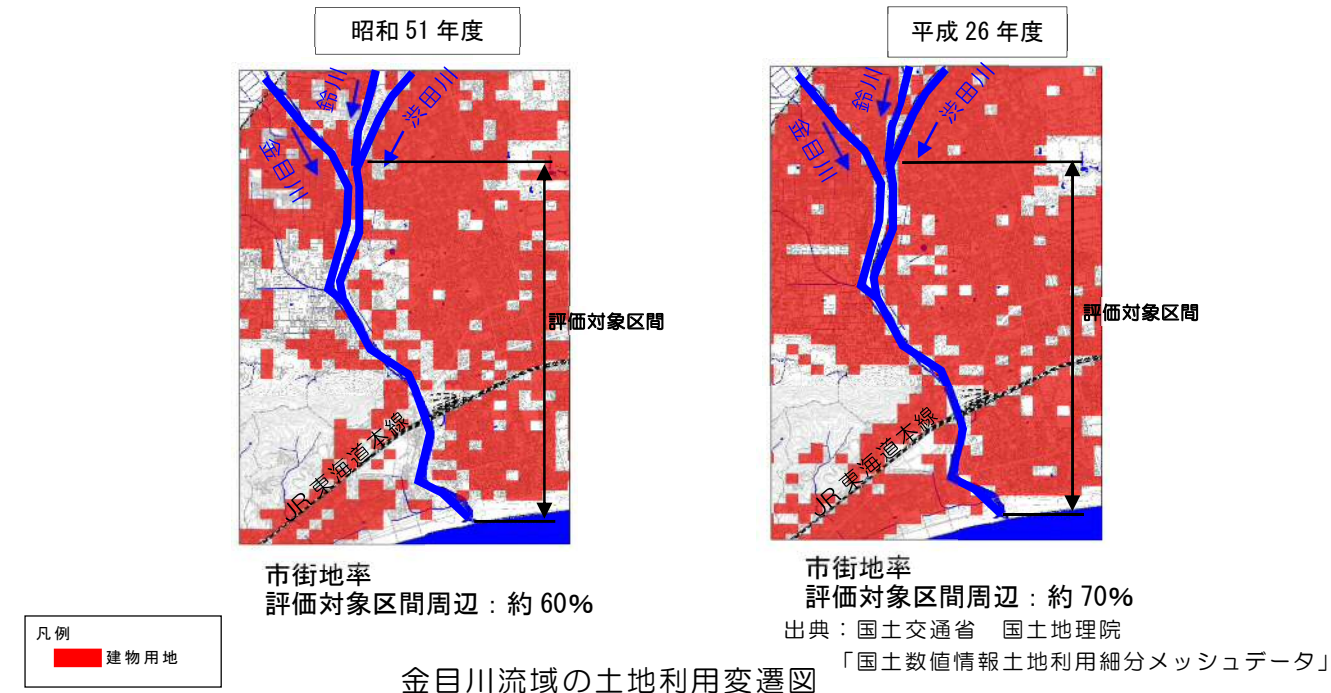
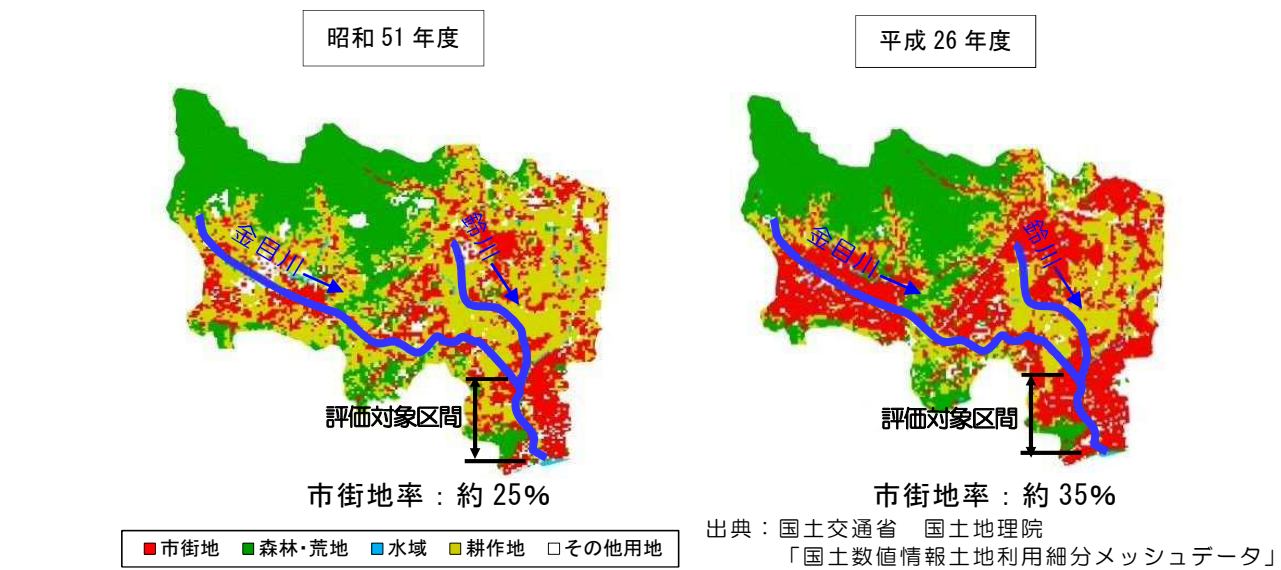
- ・評価対象区間周辺には、地域の重要な幹線道路である国道 1 号等、平塚市の避難所に指定されている山下小学校、平塚市の広域避難所に指定されている平塚商業高校等が位置する。

イ) 地元の意識

- ・本河川が流れる平塚市、秦野市、伊勢原市等は、地元住民の人命及び財産の保護のため、事業の早期完成を望んでいる。

ウ) 事業地の状況

- ・昭和 50 年代からの土地利用の変遷を見ると、平塚市の土地区画整理事業等により市街化が進行している。



②事業の投資効果等

◆ チェックリスト

(1) 事業の必要性等に関する視点	総費用：144.3 億円	事業費：130.0 億円
	総便益：9,364.0 億円	維持管理費：14.3 億円 被害防止便益：9,362.8 億円 残存価値：1.2 億円

ア) 地域の状況	■ 経済的内部収益率 (EIRR) 299.5%
----------	--------------------------

■上記便益に算定されていない効果

イ) 地元の意識	ア) 行政コストの削減
----------	-------------

- | | |
|---|--|
| <p>・本河川が流れる平塚市、秦野市、伊勢原市等は、地元住民の人命及び財産の保護のため、事業の早期完成を望んでいる。</p> <p>ウ) 事業地の状況</p> <p>・昭和 50 年代からの土地利用の変遷を見ると、平塚市の土地区画整理事業等により市街</p> | <p>・整備着手前に、計画の対象規模の洪水が発生した場合、浸水が想定される区域内では、床上浸水家屋から水害廃棄物は約 22,000t 生じ、その処理費用は約 6 億 1,600 万円と推計されるが、本事業を実施することによって、これらの削減が期待できる。</p> <p>・水防団が出動する頻度が減少し、水防活動の実施に伴う行政コストの削減が期待できる。</p> |
|---|--|

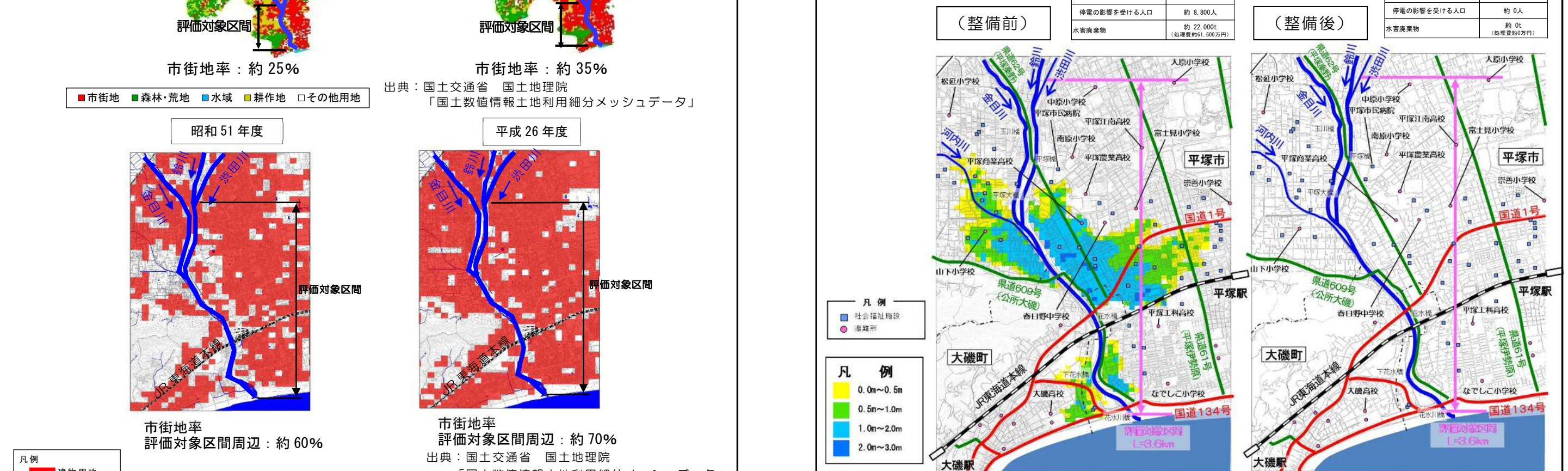
化が進行している。		イ) 安全・安心・利便性
-----------	--	--------------

-

浸水面積	約 220ha
浸水区域内人口	約 19,600人
災害時要援護者数	約 6,800人
停電の影響を受ける人口	約 8,800人
水害廃棄物	約 22,000t (処置費約 600万円)

浸水面積	約 220ha
浸水区域内人口	約 19,600人
災害時要援護者数	約 6,800人
停電の影響を受ける人口	約 8,800人
水害廃棄物	約 22,000t (処理費約61,600万円)

浸水面積	約 0ha
浸水区域内人口	約 0人
災害時要援護者数	約 0人
停電の影響を受ける人口	約 0人
水害廃棄物	約 0t (処理費約0万円)



※B/C 算定時の氾濫シミュレーションは、河川改修の事業効果を把握するために行ったものであり、洪水時の円滑かつ迅速な避難を確保すること等を目的とした水防法に基づく洪水浸水想定区域とは異なる。

		B/C 算定時の氾濫シミュレーション	水防法に基づく洪水浸水想定区域
計算条件	降雨	評価対象事業の目標とする降雨 50mm/hr（年超過確率 1 / 4）	想定し得る最大規模の降雨 396mm/日
	区間	評価対象区間	全区間（県管理区間）

金目川では、水防法の改正に伴い、想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図を平成 30 年 1 月 26 日に公表している。水防法に基づく洪水浸水想定区域図は、下記 URL 参照（神奈川県 HP）
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/cnt/f3747/p1039490.html#kaname>
※市町村は、県が作成した洪水浸水想定区域図を基に避難所等の情報を加えたハザードマップを作成・公表している。現時点における、市町村が公表しているハザードマップは下記 URL 参照（国土交通省 HP）
<http://disaportal.gsi.go.jp/>

③関係する地方公共団体等の意見

- 鈴川改修整備促進協議会
昭和 47 年の集中豪雨により、鈴川の各所で、被害が生じたことから、鈴川流域の平塚市、伊勢原市、秦野市及び三市の関係者で構成される協議会が、昭和 48 年に設立され、鈴川およびその支川の改修整備の要望が、毎年度、知事あてに提出されている。
- 平塚市
金目川について、近年の局地的豪雨により浸水被害が発生しているため、早期に整備を進めるよう要望がある。

(2) 事業の進捗の見込みの視点

①事業の進捗状況

- 事業化年度：平成 15 年度
- 用地着手年度：平成 15 年度
- 工事着手年度：平成 15 年度
- 進捗率：46%（用地取得率 91%）
- 供用率：74%
- 残事業の内容等：用地取得、河道整備、橋梁架替工

②これまでの課題に対する取り組み状況

- ・平塚大橋下流左岸において、事業用地内にある墓地の移転調整が難航していたが、隣接地を代替地とし、墓地の再配置計画などについて、関係者への説明会を実施することで賛同を得られたため、平成 28 年度に用地取得を実施し、平成 30 年度より工事に着手する予定である。
- ・河道拡幅には用地取得が必要であり、交渉が難航している箇所もあるが、引き続き粘り強く交渉を進めるとともに、取得済み用地内で実施可能な暫定的な構造についても検討を進める。



平塚大橋下流左岸

③今後のスケジュール：

引き続き事業を継続し、平成 37 年度の完成を目指す。

年度 項目	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)	H34 (2022)	H35 (2023)	H36 (2024)	H37 (2025)
用地取得								
河道整備								
橋梁架替工								

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- コスト縮減方策
護岸整備を実施するにあたって、発生した土砂を覆土に利用することで、コスト縮減を図る。
- 代替案立案等の検討
用地取得が約 9 割を超えており、現時点では代替案を検討し実行するよりは、現計画による整備が最善である。

現況写真



花水川橋上流右岸（未整備箇所）



平塚大橋下流左岸（未整備箇所）



平塚橋上流（整備済箇所）



平塚橋上流左岸（未整備箇所）

◆対応方針（案）

継続	【理由】 本事業は、一度氾濫が起きると広域な浸水被害が想定される河川において、河道改修を実施して、残区間の流下能力の向上を図るなどの必要性に変化はなく、重要性は依然として高いことから、事業を継続する必要があると判断する。なお、用地取得が難航している箇所もあるが、引き続き粘り強く交渉を進めるとともに、取得済み用地内で実施可能な暫定的な構造についても検討を進める。
----	---